

新たな書の世界が  
見えてきます。

# 編集の趣旨と特色

● 『書Ⅲ』 「書Ⅲ702」 (令和6年度新刊)

● 『書Ⅰ・書Ⅰプライマリブック』 「書Ⅰ702・書Ⅰ703」

● 『書Ⅱ』 「書Ⅱ702」

言葉と心の織りなすものが  
 「書」であるなら  
 「書」を知ることは  
 「人」を知ることだとも言えます。

心と向き合って  
 言葉を書くという機会が  
 少なくなった現代。  
 今こそ、「書」と向き合い、  
 多くの先人たちと  
 今を生きる私たち自身の  
 言葉と心を、  
 あらためて実感してみませんか。  
 書Ⅰは二冊でひとつの教科書。  
 書Ⅱは一冊で二役。  
 書ⅢはⅠ・Ⅱの学びの集大成。  
 教育図書の想いの形がここにあります。



2冊で1セット。  
 それぞれ、表現主体、  
 鑑賞主体の内容です。



冒頭の16ページが  
 プライマリーです。

書Ⅱ  
 [書Ⅱ 702]



書Ⅰ・書Ⅰプライマリーブック  
 [書Ⅰ 702・書Ⅰ 703]

《表紙写真のお話》  
 用具・用材にみる、  
 生徒たちのもう一つの個性  
 教科書の表紙に登場する書  
 の用具・用材たちは、実際  
 に高校生が授業で使用して  
 いるものです。オーディ  
 ションによる厳選を経て  
 撮影しました。生徒たちの  
 手により使い込まれたその  
 姿に、人と文字をつなぐ用  
 具・用材ならではの、リア  
 ルな創作の息遣いを、どう  
 か感じてみてください。

令和6年度 新刊



新しい発見満載の  
 教科書です。

書Ⅲ  
 [書Ⅲ 702]

「書は人とともにある」「よらへん」の  
リアリティを感じてほしい。

レジエント  
には訳がある。

楷書を知る 漢字のプラットフォーム

読み書きを続けて  
約千五百年

漢字は、各時代を生き  
た人々によって、洗練や  
すく、美しくするための工  
夫が加わられてきました。  
漢字に力を入れ、書風は  
時代によって大きく変わ  
り、漢字が生き生きとした  
形をもちました。そして今  
から千五百年以上前に生  
まれた楷書は、現代人に  
も読み書きしやすい形に  
なっています。

楷書を知る3つのポイント

①漢字の五つの筆の動きも使われている  
②漢字の千五百年以上経った姿も使われている  
③漢字の筆法、右より左への書き方を覚える

右よがりの方の楷書  
漢字は、各時代を生き  
た人々によって、洗練や  
すく、美しくするための工  
夫が加わられてきました。  
漢字に力を入れ、書風は  
時代によって大きく変わ  
り、漢字が生き生きとした  
形をもちました。そして今  
から千五百年以上前に生  
まれた楷書は、現代人に  
も読み書きしやすい形に  
なっています。

楷書の成立

トンスー・トンのリズム

楷書の洗練と書風の展開

楷書による芸術表現

楷書の名称の由来

楷の木にちなんで

楷書の成立

トンスー・トンのリズム

楷書の洗練と書風の展開

楷書による芸術表現

楷書の名称の由来

楷の木にちなんで

書の名家も、  
名もなき先人たちも、  
みんな「私の書」を  
書いてきた。

自分らしき・あの人らしき

楷書の成立

トンスー・トンのリズム

楷書の洗練と書風の展開

楷書による芸術表現

楷書の名称の由来

楷の木にちなんで

王羲之の書はどのように伝わったのか

王羲之の書はどのように伝わったのか

王羲之の書はどのように伝わったのか

王羲之の書はどのように伝わったのか

王羲之の書はどのように伝わったのか

王羲之の書はどのように伝わったのか

王羲之の書はどのように伝わったのか

王羲之の書はどのように伝わったのか

書Ⅰ  
書Ⅱ  
書Ⅲ

教科書に  
込めた想い

2

「初めて知るよるいび」「たくさん出逢ってほしい。」



仮名の書風 演者は仮名で舞台は料紙



書Ⅱ 98-99 ページ

書Ⅱ

書には、  
歴史と伝統と  
文化がある。

背景を知ると  
どんどん  
興味が広がる。



書Ⅰ 64-65 ページ

書Ⅰ

書Ⅰ  
書Ⅱ  
書Ⅲ

教科書に  
込めた想い

3

「腑に落ちて納得する体験」を重ねてほしい。

書Ⅰ



書Ⅰ 54-55 ページ



書Ⅰ プライマリーブック 8-9 ページ

表現と鑑賞の  
往還が  
納得へと導く。

どんな表現にも  
きっかけや  
動機がある。

書Ⅲ



書Ⅲ 8-9 ページ

書Ⅰ  
書Ⅱ  
書Ⅲ

4

「言葉」「心」と向き合ってほしい。

表現の種は  
自身の心の  
中にある。



書Ⅰ 6-7 ページ

書Ⅰ



書Ⅱ 114-115 ページ

書Ⅱ

書Ⅰ  
書Ⅱ  
書Ⅲ

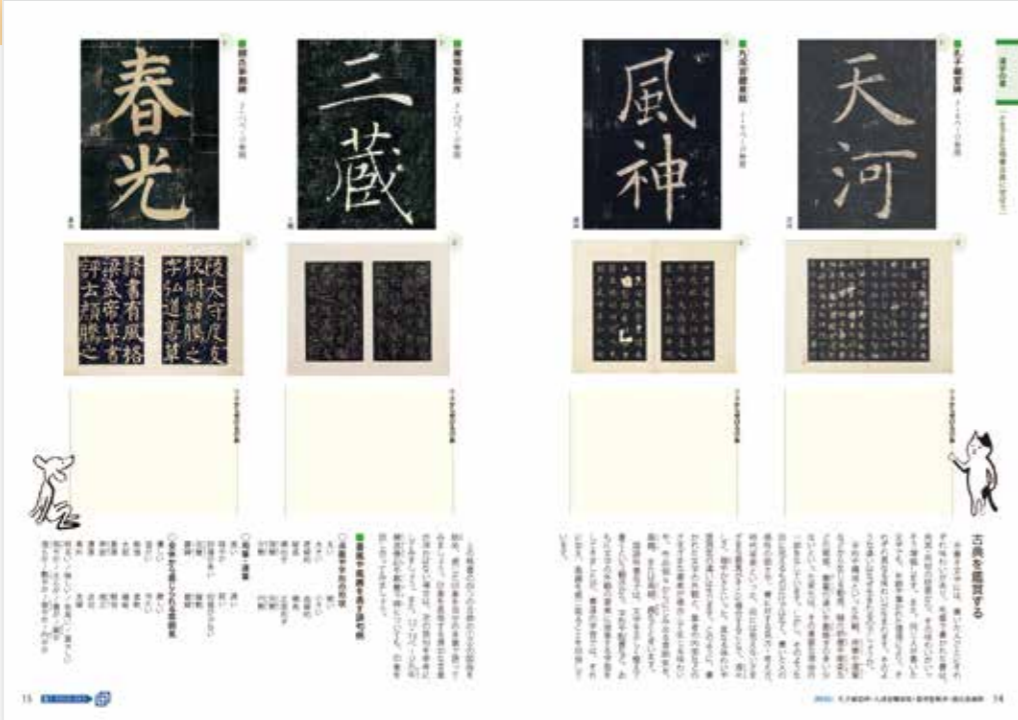
5

等身大の表現者であり鑑賞者であってほしい。

書Ⅲ



書Ⅲ 60-61 ページ



書Ⅰ プライマリーブック 14-15 ページ

書Ⅰ

比較すること  
で見えてくる  
ものがある。

# 検討の観点と内容の特色

※教科書で選定の際には、書名・教科書記号・番号等の記入欄に、「書Ⅰ（書Ⅰ702）／書Ⅰプライマリーブック（書Ⅰ703）」とお書きください。

項目	観点	特色等
内容の選択・程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習指導要領の教科の目標を達成するため必要な教材が適切に用意されているか。</li> <li>* 基礎的・基本的事項の理解や習得のため適切な配慮がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学書写の内容の確認、表現を中心に書の基礎的・基本的事項の理解や習得を図ることを目的とした『書Ⅰプライマリーブック』、鑑賞を中心に書の伝統と文化について幅広く理解することを目的とした『書Ⅰ』の二冊の学習を通して、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養えるように配慮されている。</li> <li>・ 『書Ⅰ』と『書Ⅰプライマリーブック』の各単元をさまざまに組み合わせることによって、書のよさや美しさを感じ、書の幅広い活動に取り組むことができる構成になっている。</li> <li>・ 『書Ⅰ』の「書へのいざない」は、高校書道の学習を概観する内容、『書Ⅰプライマリーブック』の「書へのいざない」は、中学書写の学習の確認で構成されており、生徒が見通しを立て、迷うことなく書道Ⅰの学習に取り組めるように配慮されている。</li> <li>・ 「漢字の書」では、楷書と行書を中心にしながら、篆書・隷書・草書まで、各時代を代表する基本的な古典を書風や技法の偏りなく幅広く取り上げている。</li> <li>・ 「仮名の書」では、平安時代の優美な古筆を中心に、技法の特徴や美しさの要素を丹念に紐解くことで、漢字の書との対極とも言える仮名の書の美を理解できるように配慮されている。</li> <li>・ 「漢字仮名交じりの書」は、書が「言葉を書く」芸術であることを生徒が最も実感できる領域であり、先人たちのさまざまな創意工夫の跡を鑑賞し、自身の表現の構想と工夫に生かせるように配慮されている。</li> </ul>
組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 内容の組織・配列は、学習指導を有効に進められるように配慮されているか。</li> <li>* 分量は学習指導を有効に進められるように配慮され、精選されているか。</li> <li>* 中高の接続に対する配慮がされているか。</li> <li>* 弾力的な取り扱いに対する配慮がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『書Ⅰプライマリーブック』は、この一冊だけでも、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づく表現の基礎的な技能を身に付け、意図に基づいて構想し表現を工夫することができる構成となっている。</li> <li>・ 『書Ⅰ』は、書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる構成となっている。</li> <li>・ 『書Ⅰ』の「漢字の書」は、篆書・隷書・草書・行書・楷書が人々の営みの中から必然性を持って誕生したことを理解できるよう、書体の変遷順に領域が配列されている。</li> <li>・ 『書Ⅰプライマリーブック』の「漢字の書」は、中学書写からの導入に始まり、楷書と行書の基本的な古典を臨書し、作品制作へとつなげる配列となっている。</li> <li>・ 『書Ⅰ』の「仮名の書」は、漢字から仮名が生まれた経緯に始まり、平安時代のさまざまな古筆の美を、一字・一行・紙面全体へと視線を移しながら理解できるように配列されている。</li> <li>・ 『書Ⅰプライマリーブック』の「仮名の書」は、仮名の基本用筆に始まり、平仮名单体、連綿の学習を経て、平安時代の端正な古筆を臨書し、作品制作へとつなげる配列となっている。</li> <li>・ 「漢字仮名交じりの書」は、『書Ⅰ』で漢字と仮名の調和したさまざまな表現を鑑賞するとともに、『書Ⅰプライマリーブック』で、言葉と表現の関係を意識しながら、漢字や仮名の古典や名筆を参考にしたり、用具・用材の扱い方や紙面構成を工夫するなどして、自身の作品を制作するような構成となっている。</li> </ul>
表記・表現及び指導に対する工夫や配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習意欲を高めるための配慮がされているか。</li> <li>* 用語・記号の取り上げ方や記述の仕方は適切か。</li> <li>* 生徒の自学自習への配慮や工夫がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現の学習に重点を置いた『書Ⅰプライマリーブック』と、鑑賞の学習に重点を置いた『書Ⅰ』それぞれが、知識と技能の習得の意欲を喚起するような、簡潔でわかりやすい構成になっている。</li> <li>・ 領域や書体ごとに付したインデックス、二冊の往還を補助する数種類のマーク、親しみやすいイラストやキャラクターの活用、よく練られた単元のタイトルや解説の言葉・表現など、生徒の理解しやすさと指導者の利便性の双方に配慮されている。</li> <li>・ 難解な語句や覚えたい用語にふりがなを付したり、巻末に「書道用語集」を設けるなど、自学自習にも配慮されている。</li> <li>・ 書の伝統と文化を理解しやすくするため、生徒が興味や疑問を感じる内容について特に丁寧に解説されている。</li> <li>・ タイトルや本文の文字は、古典の図版を際立たせるよう細いゴシック体で統一し、読みやすい文字の大きさや太さに配慮するなど、視覚的に理解しやすく工夫がされている。</li> <li>・ ICTを活用するためのQRコードを、見開きページの左上に統一して掲載することで、生徒や指導者の利用の便宜が図られている。</li> </ul>
印刷・造本上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。</li> <li>* 環境保全や生徒の多様な特性に配慮がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典の図版は、原本に迫る臨場感で、美しく鮮明に印刷されている。</li> <li>・ タイトル・本文とも、文字の視認性を重視した細いゴシック体フォントを使用し、紙面には適度な余白が確保されている。</li> <li>・ 全ての生徒が無理なく学べるように、文字の太さや大きさ、ふりがなの大きさ、行間、色使いが工夫されている。</li> <li>・ 『書Ⅰプライマリーブック』は、臨書の際の便宜を図った半分に折りたたみやすい中綴じ製本で、ページ数にも配慮し、蛍光灯等の反射の少ない紙が使用されている。</li> <li>・ 『書Ⅰ』は、ノドの開きが大きいPUR製本と、戻りの少ないしなやかな紙が使用されている。</li> <li>・ 表紙・本文とも軽量に仕上がる紙を使用することで、ページ数ほどの重量を感じない仕上がりにも配慮されている。</li> <li>・ 表紙には、ポリプロピレンフィルム加工を施すことで、強度に配慮されている。</li> </ul>
総合所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特徴。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書道Ⅰの学習に必要な表現・鑑賞のための学習材を、二冊の教科書に系統的・段階的に取り上げられている。</li> <li>・ 表現の学習、鑑賞の学習それぞれに重点を置いた二冊の教科書が、各冊の学習効果だけでなく、往還のマークを丁寧に付すことで、併用することによる学習の深化と発展にも配慮されている。</li> <li>・ 判型を生かした迫力ある紙面、鮮明で美しい図版、活用しやすい折り込みページの配置により、知識・技能の習得からその活用まで、充実した学習が展開できるように工夫されている。</li> <li>・ QRコードによる動画解説や国内外の美術館・博物館ホームページの参照等により、ICTの効果的な活用による充実した学習活動が展開できる。</li> <li>・ 再生紙や植物油インキを使用することで、環境に配慮されている。</li> </ul>



ミニマムもスタンダードも、どんな学びも受け止めます。

## 学びの道しるべ





しるしる      みるみる

学習を広げたり深めるところに登場します。

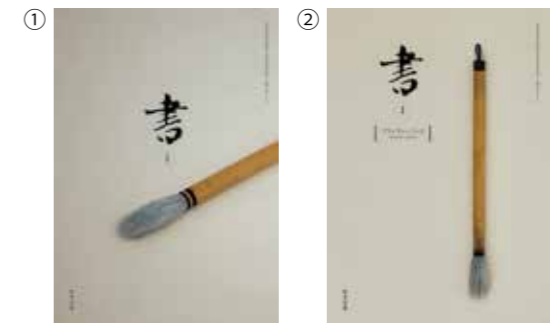
**P000** リファレンスマーク  
『書Ⅰ』の中で内容が関連しているページです。

**P000** リファレンスマーク  
『書Ⅰプライマリーブック』の中で、内容が関連しているページです。

**書Ⅰ P000-000**  リンクマーク  
二冊の学習が関連しているページを、『書Ⅰプライマリーブック』に示しています。

**QRコード**      **QRマーク**  
 **QR**  
QRコードでアクセスしたwebページに、情報が掲載されているものです。

QRコードにタブレットやスマートフォンをかざしてアクセスしたwebページに、情報が掲載されているマークです。



①書Ⅰ [書Ⅰ702] A4判 120ページ  
②書Ⅰプライマリーブック [書Ⅰ703] A4判 50ページ  
①と②がセットになった、二冊組の教科書です。

## 学習を助けるさまざまな工夫



『書Ⅰプライマリーブック』が『書Ⅰ』にすっぽりおさまる造本設計です。



『書Ⅰプライマリーブック』は、薄くて半分に折りたたみやすい製本です。

表現主体の学習に『書Ⅰプライマリーブック』、鑑賞主体の学習に『書Ⅰ』、二冊それぞれが、充実した内容と考え抜かれた造本設計なので、授業時間数や教室の環境、生徒の実態など、さまざまな状況にフレキシブルに対応します。

## 『書Ⅱ』 検討の観点と内容の特色

項目	観点	特色等
内容の選択・程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習指導要領の教科の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。</li> <li>* 基礎的・基本的事項の理解や習得のため適切な配慮がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『書Ⅰ』『書Ⅰプライマリーブック』二冊の教科書の学習を受け、表現と鑑賞の能力をバランスよく高め、創造的な活動が展開できるような学習材が十分に用意されている。また、巻末資料編に、近代から現代の書の流れと特徴を知ることができる作品を豊富に掲載することで、生涯にわたり書を愛好する心情を育てることに配慮されている。</li> <li>・『書Ⅰプライマリーブック』同様の単元「書Ⅱプライマリー」を冒頭に設けることで、基礎・基本的な内容を効率よく身に付けることができるように配慮されている。</li> </ul>
組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 内容の組織・配列は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。</li> <li>* 分量は学習指導を有効に進められるように考慮され、精選されているか。</li> <li>* 弾力的な取り扱いに対する配慮がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書Ⅱプライマリー」は、書の伝統に基づく表現の基礎的な技能を身に付け、意図に基づいて構想し表現を工夫することができる構成となっている。</li> <li>・「漢字の書」「仮名の書」は、時代や書体を代表する古典により、段階的に学習を進められるように工夫されている。また、それぞれの分野が適切な分量で組織・配列され、表現と鑑賞の学習を相互に関連を図りながら進められるように配慮されている。</li> <li>・「漢字仮名交じりの書」は、言葉と表現の関係を意識しながら、漢字や仮名の古典や名筆を参考にしたり、用具・用材の扱い方や紙面構成を工夫するなどして、自身の作品を制作するような構成になっている。</li> </ul>
表記・表現及び指導に対する工夫や配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習意欲を高めるための配慮がされているか。</li> <li>* 用語・記号の取り上げ方や記述の仕方は適切か。</li> <li>* 生徒の自学自習への配慮や工夫がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現・鑑賞の往還学習が可能な「書Ⅱプライマリー」、「私を表現へと導く書」、「資料書の文化」の各単元が、知識と技能の習得の意欲を喚起するような、簡潔でわかりやすい表現と構成になっている。</li> <li>・領域や書体ごとに付したインデックス、往還を補助するマーク、親しみやすいイラストの活用、よく練られた単元のタイトルや解説の言葉・表現など、生徒の理解しやすさと指導者の利便性の双方に配慮されている。</li> <li>・ICTを活用するためのQRコードを、見開きページの左上に統一して掲載することで、生徒や指導者の利用の便宜が図られている。</li> </ul>
印刷・造本上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。</li> <li>* 環境保全や生徒の多様な特性に配慮がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図版は、原本に迫る臨場感で、美しく鮮明に印刷されていて、文字の視認性を重視した細いゴシック体フォントを使用し、紙面には適度な余白が確保されている。</li> <li>・ノドの開きが大きい製本と、戻りの少ないしなやかで軽量に仕上がる紙が使用されている。</li> <li>・表紙にポリプロピレンフィルム加工を施すことで、強度に配慮されている。</li> </ul>
総合所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 上記観点から見た、全体的・総合的な当該教科書の特色。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道Ⅱの学習に必要な表現・鑑賞のための学習材が系統的・段階的に取り上げられている。</li> <li>・表現と鑑賞の往還学習のためのマークを付すことで、学習の深化と発展に配慮されている。</li> <li>・判型を生かした迫力ある紙面、鮮明で美しい図版、活用しやすい折り込みページの配置により、知識・技能の習得からその活用まで、充実した学習が展開できるように工夫されている。</li> </ul>



書Ⅱ [書Ⅱ 702] A4判 134ページ

## 学びの道しるべ

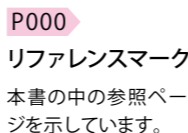
ワカルカモ マナビトビ  
ともに考え、ともに学ぶトビとカモです。

## 考えて見るマーク

マナビトビとワカルカモと一緒に、考えながら鑑賞するページです。

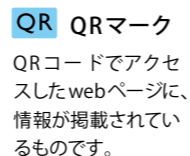
深めて知るマーク  
(発展学習)

書道Ⅱの学習指導要領に示されていない、発展的な内容です。学習の幅を広げたり、知識を深めたい場合など、自身の興味・関心にあわせて取り組みましょう。



## P000 リファレンスマーク

本書の中の参照ページを示しています。



## QR QRマーク

QRコードでアクセスしたwebページに、情報が掲載されているものです。



## QRコード

学習に役立つ情報をwebサイトで見ることができます。

## 『書Ⅱ』で体験できること



臨書の目的を見失って形ばかりを追いかけてしまったり、創作が目指す「自分らしさ」の表出に悩む時、どうすればよいかを自ら考えたり、共に話し合う機会を作ることも大切ではないでしょうか。



書Ⅱはプライマリー編から始まります。



書聖や能書が書いた古典も、書かれた当初は、自分と同じ人間が、自分のためや誰かを思って書いたものだと思って見てみると、グッと自分に近づいてきます。

『書Ⅰ』・『書Ⅰプライマリーブック』では、書の基礎・基本を学びました。『書Ⅱ』では、臨書で何を学ぶのか、創作にはどんな力が必要なのか、鑑賞とは作品をただ見るだけのことであるのかといった、書の本質に迫っていきます。

# 『書Ⅲ』 検討の観点と内容の特色

項目	観点	特色等
内容の選択・程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習指導要領の教科の目標を達成するため必要な教材が適切に用意されているか。</li> <li>* 基礎的・基本的事項の理解や習得のため適切な配慮がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書道Ⅰ・書道Ⅱの学習を受け、さらに表現と鑑賞の能力をバランスよく高め、个性的で創造的な活動が展開できるような学習材が十分に用意されている。また、巻末の書道史に関する資料や、近現代の書家の作品や生活の中に生きる書に触れることで、生涯にわたり書を愛好する心情を育てることに配慮されている。</li> <li>・ 臨書や鑑賞の学習材は、基礎・基本的な内容を踏まえつつ、書道Ⅰ・書道Ⅱで学んだ知識や技能を、自発的に広げたり深めたりすることができるような選定の工夫がされている。</li> </ul>
組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 内容の組織・配列は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。</li> <li>* 分量は学習指導を有効に進められるように考慮され、精選されているか。</li> <li>* 弾力的な取り扱いに対する配慮がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書前半は「表現を知る 書」ということで、臨書の学習材や、創作の参考となるような古典・名筆を、系統的・発展的に掲載している。</li> <li>・ 「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」いずれも、个性的な古典や名筆が、それぞれ適切な分量で組織・配列され、表現と鑑賞相互に関連を図りながら学習が進められるように配慮されている。</li> <li>・ 教科書後半の「鑑賞を知る 書」は、近現代の書を中心に、言葉と表現の関係を意識しながら、表現につながる方法で鑑賞するような工夫がされている。</li> <li>・ 書論や書道史についても、生徒が理解しやすい内容を適切な分量掲載している。</li> </ul>
表記・表現及び指導に対する工夫や配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習意欲を高めるための配慮がされているか。</li> <li>* 用語・記号の取り上げ方や記述の仕方は適切か。</li> <li>* 生徒の自学自習への配慮や工夫がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「表現を知る 書」「鑑賞を知る 書」の各単元が、知識と技能の習得の意欲を喚起するような、簡潔でわかりやすい表現と構成になっている。</li> <li>・ 領域や書体ごとに付したインデックス、往還を補助するマーク、親しみやすいイラストの活用、よく練られた単元のタイトルや解説の言葉・表現など、生徒の理解しやすさと指導者の利便性の双方に配慮されている。</li> <li>・ ICTを活用するためのQRコードを、見開きページの左上に統一して掲載することで、生徒や指導者の利用の便宜が図られている。</li> <li>・ 図版の釈文や読みの中で、長文のものについてはQRコードでアクセスして参照するようにし、見やすさやわかりやすさに配慮している。</li> </ul>
印刷・造本上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。</li> <li>* 環境保全や生徒の多様な特性に配慮がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図版は、原本に迫る臨場感で、美しく鮮明に印刷されていて、文字の視認性を重視した細いゴシック体フォントを使用し、紙面には適度な余白が確保されている。</li> <li>・ ノドの開きが大きい製本と、戻りの少ないしなやかで軽量に仕上がる紙が使用されている。</li> <li>・ 表紙にポリプロピレンフィルム加工を施すことで、強度に配慮されている。</li> </ul>
総合所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 上記観点から見た、全体的・総合的な当該教科書の特色。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書道Ⅲの学習に必要な表現・鑑賞のための学習材が系統的・段階的に取り上げられている。</li> <li>・ 表現と鑑賞それぞれの学習の広げ方、深め方がいねいに記述されている。</li> <li>・ 判型を生かした迫力ある紙面、鮮明で美しい図版、ひと目でわかる領域別に色分けされたインデックスなど、知識・技能の習得からその活用まで、充実した学習が展開できるように工夫されている。</li> </ul>

令和6年度新刊



書Ⅲ [書Ⅲ 702] A4判 94ページ

## 学びの道しるべ



ともに考え、ともに学ぶ  
ゾウとフクロウのガイド役です。

P000

リファレンスマーク

本書の中の参照ページを示しています。

### QR QRマーク

QRコードでアクセスしたwebページに、美術館・博物館のホームページへのリンクや、作品の釈文・読みなどの情報が掲載されていることを示すマークです。鑑賞や臨書、創作など、さまざまな学習場面で参照しましょう。

### QRコード

学習に役立つ情報をwebサイトで見ることができます。

### 『書Ⅲ』に新たに加わった機能

教科書掲載の古典や名筆の中で、作品全体を掲載しているものがいくつかあります。それらの釈文や読みは、長文であるため、教科書の紙面に掲載すると、文字が小さくなり読みづらいので、QRコードでアクセスして見られるようにしました。ぜひ活用ください。



## 『書Ⅲ』で体験できること



表現の学習の前に、何のために臨書するのか、今一度考える機会を設けました。



鑑賞の学習の前に、まず、なぜ書論を学ぶのか、また、鑑賞と書論の関係について、わかりやすく記述しました。



書道Ⅰ・書道Ⅱを振り返り、これからの学習を展望することから始まります。



言葉と心と向き合いながら、書を三年間学んできた生徒たちへ、卒業の饗となる言葉を贈ります。

書を知ることとは人を知ること。人を知るとは、自分を知り相手を知ること。心と対話しながら積み重ねた書の学びは、デジタル社会に暮らす生徒たちの、生きる指針となり、自信となり、未来を明るく照らしてくれるでしょう。

『書Ⅲ』  
個を携え羽ばたく生徒の背中をそっと後押しします。





## ◎新教育課程用教科書

『書Ⅰ』『書Ⅰプライマリーブック』『書Ⅱ』『書Ⅲ』 著作編集関係者

### 【著作者】

澤田 雅弘 大東文化大学教授  
辻元 大雲 書道芸術院顧問  
土橋 靖子 日展理事  
名児耶 明 筆の里工房副館長・元五島美術館副館長  
福井 淳哉 帝京大学准教授  
荒井 一浩 東京学芸大学附属高等学校教諭  
大野 幸子 桜蔭中学校高等学校講師  
國定 貢 群馬県立高崎工業高等学校教諭  
後藤 浩 千葉県立国府台高等学校教諭  
鈴木 幸子 元千葉県立高等学校教諭  
五月女章子 栃木県立宇都宮高等学校教諭  
松尾 治 専修大学准教授

### 【顧問】

關 正人 日展会員

### 【編集協力者】

稲村龍谷  
早川忠文 [書Ⅰ]  
日野楠雄 [書Ⅰ]

### 【表紙・本文デザイン】

成澤 豪 成澤宏美 (なかよし図工室)

### 【表紙写真撮影】

興村憲彦

### 【表紙写真撮影協力】

桜蔭中学校高等学校 [書Ⅰ]  
千葉県立国府台高等学校  
栃木県立宇都宮高等学校 [書Ⅲ]  
栃木県立宇都宮南高等学校 [書Ⅲ]  
小津和紙

### 【写真・映像撮影】

坂上俊彦 [書Ⅰ]  
進藤丈夫 (ジョブナ) [書Ⅰ・Ⅱ]  
谷山真一郎

### 【イラスト】

谷山彩子

 **教育図書株式会社**

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-3-2  
Tel.03-3233-9100 (代表) Fax.03-3233-9104

新刊『書Ⅲ』、既刊『書Ⅰ』『書Ⅰプライマリーブック』『書Ⅱ』各教科書の紹介、編集趣意書、シラバス、評価規準例、検討の観点と内容の特色など、詳しくは教育図書webサイトへ。

